

2023年8月23日  
朝日自動車株式会社

## 路線バス（乗合バス）の上限運賃改定の申請について

朝日自動車株式会社（本社事務所：埼玉県越谷市、取締役社長：神崎満）では2023年8月23日に、国土交通省へ埼玉県内の乗合バス運賃の上限運賃改定認可申請を行いました。申請理由および申請概要等は次のとおりです。

お客様にはご負担をおかけいたしますが、事情ご賢察のうえご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 1. 申請理由

弊社は、東武鉄道㈱からバス事業を移管され路線バス運行を開始して以来、25年間にわたり上限運賃改定を実施することなく※、安全運行を最優先としながら、路線網の拡充や利用者利便策の充実を図ってまいりました。しかしながら、この間、社会環境は少子高齢化や人口減少、マイカー等との競合などバス利用者数の確保には困難な状況が続き、さらに近年では、感染症拡大による新たな生活様式の定着により移動需要自体が減少したため、収入面において、極めて厳しい事業運営となっております。

他方、バス運転士を中心とする人件費や燃料費は増加傾向であり、また、最優先事項である安全対策をはじめ、定期的な車両代替・利便向上策・環境対策等のコストも同様に増加傾向となっており、収入面の苦境と併せて事業経営を圧迫してきております。

しかしながら、このような事業環境であっても、公共交通としての弊社バス事業を、今後も安全かつ安定的に継続していく必要があります、そのため、今般、上限運賃の変更認可申請をいたしました。

今後も、引き続き経営努力に努めてまいる所存ですので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

※ 2014年・2019年の消費税転嫁改定を除きます。

### 2. 申請概要

- |                |  |
|----------------|--|
| (1) 申請日        | 2023年8月23日（水）  |
| (2) 運賃改定実施予定日  | 2023年12月中（認可後決定）                                     |
| (3) 申請対象路線     | 弊社の埼玉県内全路線（都・県跨ぎ路線の埼玉県内区間を含みます。なお、コミュニティバスは除きます。）    |
| (4) 上限運賃の平均改定率 | 23.74%<br>(実施運賃に関しては、上限運賃より低い10～14%程度のアップを予定しております。) |
| (5) 運賃単位       | 現金・ICカードとも、一部の路線・区間を除いて、10円単位の運賃に変更となります。            |

(6) 現行・申請運賃比較表

	現行運賃		実施運賃(予定)※1		申請(上限)運賃※2	
	現金	ICカード	現金	ICカード	現金	ICカード
初乗運賃	180円	178円	200円(同額)※3		220円	220円
同 定期券 (通勤1か月)	8,100円		9,000円		9,900円	

※1 実施運賃は、認可が得られた上限運賃の範囲内で実施する実際にお客様から収受する運賃額です。

※2 申請(上限)運賃は、事業の経営に必要な原価に応じて算出される、バス事業者が収受してもよいとされる運賃の上限額です。

※3 一部の路線・区間では、運賃収受機の関係でICカード・1円単位運賃が残ります。

(7) 主要区間の運賃

(円)

区間	片道運賃			通勤定期券(1ヶ月)	
	現行運賃		実施運賃	現行	実施運賃
	現金	IC	現金・IC (同額)		
越谷駅東口～越谷市立病院	190	189	210	8,550	9,450
春日部駅東口～イオンモール春日部前	240	231	270	10,800	12,150
久喜駅西口～モラージュ菖蒲前	380	377	420	17,100	18,900
鴻巣駅～免許センター	180	178	200	8,100	9,000
熊谷駅～妻沼	480	472	530	21,600	23,850

3. 埼玉県内の輸送人員及び収支状況

		輸送人員	収支状況
2023年度(申請年度)※4		15,922千人	△476百万円
2024年度(推定年度)	運賃改定前	15,738千人	△562百万円
	運賃改定後※5	15,187千人	△69百万円

※4 2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた回復途中のため、記載しておりません。また、2023年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を加味しておりません。

※5 2024年度運賃改定後の輸送人員、収支状況は申請(上限)運賃での推計値です。

4. これまでの経営合理化状況及び今後の取り組み

弊社ではこれまでも不採算路線の再編や需要にあわせた輸送力の見直しなど、事業運営の合理化を図るとともに、管理コスト削減やアイドリングストップによる燃料費削減等、様々な取り組みに努めてまいりました。加えて、バスの車内外を活用した広告(ラッピングや、外板広告、車内広告等)や広告付きバス停留所の増設等により、関連収入の確保にも努めてまいりました。

今後も上記施策を継続しながら、コロナ禍による生活様式の変化に対応した運行ダイヤの見直しや、DX(デジタルトランスフォーメーション)による業務の効率化等にも努めたいえ、継続して経営改善に取り組んでまいります。

## 5. 安全対策への取り組み

弊社では、バス事業の最大の使命である「輸送の安全」を常に最優先に考えて、事業に取り組んでおり、お客様に安心してご利用いただけるよう今後も継続して安全性の向上に努めてまいります。

具体的には、運転士への安全教育をはじめとして、運転士に指導を行う管理者への教育にも力を入れたソフト面の施策を継続して実施しており、今後も引き続きレベルアップを図ってまいります。またハード面では、お客様が乗り降りしやすいノンステップバスの導入を進めるほか、ドライバーの異常対応システム（EDSS）搭載バス※6の導入など最新技術を積極的に取り入れながら、引き続き安全対策に対して積極的に投資を進めてまいります。

また、健康起因の事故を防止するため、全従業員を対象とした睡眠時無呼吸症候群（SAS）の検査や、脳MRI健診を定期的に行っています。

※6 走行中の運転士に異常が発生した際、運転席もしくは車内の非常ブレーキスイッチを押すことで制動を開始し、速度を段階的に低下させて車両を停止する装置です。

## 6. サービス向上への取り組み

弊社では、利便性向上策として、バスナビゲーションシステム（バス位置情報システム）を導入しているほか、「朝日自動車グループ共通学生フリーパス（1年定期券・6か月定期券）」や「70歳以上の方を対象とした高齢者向けの定期券（アクティブシニアパス）」などの割引率の高い商品を発売しています。また交通系ICカードの導入など、これまでも様々なサービス向上策に取り組んでまいりました。

今後も、ノンステップバスのさらなる導入や、車内における運賃等案内表示機の新型機器（液晶パネル方式）への代替、24時間いつでもスマートフォンで購入できるスマホ定期券の導入など、サービス改善に引き続き努めてまいります。あわせて、お客様のニーズの変化を踏まえた新路線の開設のほか、ICやITを活用した新たなサービスの導入なども検討してまいります。

## 7. 将来の課題等に対する取り組み

今後の社会的課題として、脱炭素化や労働力（運転士）不足などが大きな問題になっておりまして、バス事業者としてこれらの問題に積極的に取り組む必要があると考えております。

弊社では、EVバスや自動運転等の新技術導入に関する情報収集も積極的に行っており、引き続きこれらの社会的課題に対して積極的に取り組んでまいります。

お問合せ連絡先  
朝日自動車株式会社  
本社事務所(運輸部)  
(電話)048-978-5021